

令和6年度 京都市立四条中学校 学校教育目標・経営方針

□学校教育目標

自ら考え行動し、新たな一歩を踏み出す生徒の育成

■具体的目標

- ・夢を抱き、将来への展望を持って主体的に学習に取り組み、学び続けることができる生徒を育てる。
- ・豊かな心を持ち、自他の存在を尊重し、多様な価値観を大切にできる生徒を育てる。
- ・健康的な心身を養い、自らの生き方を追求できる生徒を育てる。

□学校経営方針

- 豊かな心と確かな学力を育み、自分の未来を生き抜く生徒の育成を図る。
- 社会の変化に対応し、多様性を認め、協働できる学校づくりを進める。
- 保護者・地域と連携・協力し、生徒が学ぶ楽しさや成就感を味わうことができる教育活動を実践する。

◇目指す生徒像

- ・自分の考えを持って他者と対話し、お互いの考えを比較、吟味することで自分の考えを深められる生徒
- ・自分の身の回りや社会の中に課題を見つけ、人権と多様性を尊重し、自ら課題を解決できる生徒
- ・自然や文化に関心を持ち、健やかな体と心の調和が保たれ、想像力に富み、協調性のある生徒

◇目指す教職員像

- ・“チーム四条”として同じ目標に向かって、教育活動を実践する教職員
- ・生徒の言動や行動の背景に目を向け、生徒、保護者に寄り添う教職員
- ・世の中の動向に敏感であり、その変化に柔軟に対応できる感覚を持った教職員
- ・OJTを大切に、自らの資質・能力、指導力の向上に努める教職員

◇目指す学校像

- ・日々の教育活動を通じて、生徒一人一人の規範意識が向上する学校
- ・落ち着いた教育環境の下、生徒が主体的に学び、深い学びに導く学校
- ・学校行事や生徒会活動、部活動などが活性化し、生徒一人一人が成就感を味わえる学校
- ・保護者との連携や地域との交流を深め、安心して教育を委ねられる学校
- ・新しい時代の教育に向けた持続可能な教育活動および学校体制を構築する学校

□重点目標

○研究・学習指導

「主体的・対話的で深い学び」を通して、学びの質を高める

■具体的な取組

- ・生徒個々の学習状況を把握し、授業および学習会を通して学びの意欲を高める。

- ・教科会及び教科主任会を充実させて授業改善を行い、一人年1回の研究授業等のOJTによる同僚性を高める。

- ・テスト問題の改善および指導と評価の一体化を図る。
- ・授業の振り返りから個々の課題を見出し、課題解決に向けて主体的に学びを進められるよう家庭学習や自学自習の充実を図る。
- ・道徳教育の充実を進め、自己の生き方についての考えを深められる実践を推進する。
- ・多様な価値観を認め、互いに尊重し合える心を育む人権教育を実施する。
- ・GIGAスクール構想に基づくICTの活用を通して個別最適な学びを進めると同時に、子ども同士が多様な価値観を共有し、話し合い活動を通して学びを深める協働的な学習を充実させる。

○生徒指導・支援

自らの行動を決断し、実行する力の育成

■具体的な取組

- ・生徒会が主体的に企画運営する取り組みを充実させる。(四条の日等)
- ・ICTを活用しての学習やケータイ教室を通して情報モラル学習を進める。
- ・心や体を大切にする感性を育む健康教育(薬物乱用、非行防止教育や性教育)を実施する。
- ・災害遭遇時に、自ら考え方判断して適切な行動ができる力を育む安全教育を進める。
- ・SC、SSWを有効活用したケースカンファレンスの実施と関係機関との有機的な連携を図る。
- ・母子生活支援施設や関係機関との定期的なコンサルテーションを行う。
- ・合理的配慮に基づく支援策のスキルを上げる教職員研修の充実を図る。
- ・社会の行動変容に対応し、正しい知見をもとに判断できる力を育む。
- ・不登校生徒や要支援生徒に対して、学校体制としての取り組みを進める。

○小中一貫教育

「夢をもち、共にまなび、たくましく社会を生き抜く子の育成」

～聴く力をつけ、互いに認め合い、自分で考え、本当の力につける～

◇目指す子ども像

- ・他社との関わりを大切にし、人とともに社会を生きる力を持つ子ども
- ・自分の考え方を深めることにより、自分を知り、自立する力を持つ子ども
- ・課題を見つけ、情報を的確に処理し、解決する力を持つ子ども
- ・自然や文化に触れる中で、夢や希望をつくりあげる力を持つ子ども

■具体的な取組

- ・ジョイント、学習確認プログラム等の分析を進め、基礎基本の学力の定着を図る。
- ・LD等の要支援生徒について、細やかな連携による9年間のスムーズな教育実践を目指す。
- ・母子生活支援施設に入所している子どもへの理解を通して、小中学校のすべての子どもの背景に目を向けた教育活動を実践する。
- ・小中合同研修会で各校の取組について情報交換を行い、理解を深めるとともに、共通の課題について認識し、課題解決に向けての取り組みを考察する。